

道岳連だより

広報 NO.66
平成24年10月4日
北海道山岳連盟

<http://www.hokkaido-HAA.net/>

創立60周年記念式典・祝賀会

平成24年10月21日(日) ホテルライフオート札幌

昭和27年10月20日に設立された北海道山岳連盟は、今年創立60周年を迎えた。小野道岳連会長は、年頭あいさつの中で「先人、先輩の積み重ねてきた道岳連へのご尽力を感謝するとともに、これからの北海道山岳連盟を多くの登山者のために新たな出発点として、共に力を合わせて参りたい」と述べ、実行委員会を中心に記念式典・祝賀会、記念事業、記念誌発行などの準備がすすめられてきた。会場のホテルライフオート札幌は、札幌市中央区南10条西1丁目（中島公園前）、記念式典・祝賀会は、2Fライフオートホールで開催する。
参加料 8,000円(記念品 記念誌、山スキーDVD)

【式典・祝賀会次第】(予定)

第1部 記念式典 12:30-13:30

会長挨拶

感謝状授与

表彰 永年功労表彰

功績表彰

社会貢献表彰

来賓挨拶

第2部 祝賀会 13:30-15:00

祝杯

来賓・役員紹介

表彰者スピーチ

余興

締めの乾杯

二次会案内(4Fレガード)

【記念事業】 ヒマラヤトレッキング

記念誌「北の岳友とともに」

DVD北海道の山スキー作成

第26回全道交流登山会札幌大会

第36回自然保護委員総会北海道大会の主管

本邦初の山岳スキーDVD完成



道岳連創立60周年記念事業として制作された「北海道の山スキー(DVD版)」は、指導委員会を中心に冬山の自然の中での撮影など、難航を重ねながらも2年をかけて完成した。日本で

初めての山岳スキーの本格的DVDである。連盟会員への頒布価格は2,250円で、多くの会員、山や山岳スキーに興味をもつ友人・知人への斡旋・購入を呼びかけている。

記念事業に全国・道内の岳友が集う

第26回道岳連盟交流登山会札幌大会 8/25-26 札幌市

“自主登山という原点に立ち戻ってみましょう”のキャッチフレーズのもと、創立60周年記念事業の一環として今年度の交流登山会が、8月25-26日の両日札幌山岳連盟主管で247名が参加し開催された。開会式・交流会・宿泊会場の定山溪自然の村は、豊平峡に隣接する豊かな自然環境と充実した施設を有する快適なキャンプ場で、開会式は会場の「風の広場」にふさわしいバイオリン演奏(北海岳友会 境谷睦美さん)をBGMにすすめられた。開会式のメは、夫妻で60歳を迎える蘭友登高会横山 温・泰子様ご夫妻が参加代表者宣誓を行い万雷の拍手を浴びていた。

二日目の登山は、定山溪天狗岳の63名を筆頭に実質8コースで実施され、残暑厳しいなか参加者は元気に頂上を目指していた。

開会式



横山夫妻の宣誓



日山協自然保護委員総会北海道大会 9/8-9 十勝岳連峰

36回目を迎えた日本山岳協会自然保護委員総会は、9月8-9日美瑛町白金温泉の大雪青少年交流の家と十勝岳連峰で開催され、日山協の神崎忠男会長、石倉昭一自然保護委員長をはじめ常任理事、自然保護委員及び18都道府県連の自然保護関係者60名が参加した。

“山はみんなの宝だ!”をスローガンに、一日目は各県連の山岳自然環境保全の取り組みや課題につ

いて意見交換し、視察巡検は白金温泉地区の火山防災施設「十勝岳火山砂防情報センター」を視察、展望台から快晴の十勝岳連峰を望んだ後、徒歩で避難路のシェルター階段を下り白髭の滝、



流路工などを巡検した。

二日目の検証登山は十勝岳、富良野岳、十勝岳泥流コースに分かれて出発するが、前日と違って変わって雨模様となり、さらに風も伴い十勝岳コースは避難小屋手前、富良野岳コースは上ホロ分岐で引返した。

主管の道岳連からは小野会長、佐藤自然保護委員長ほか 28 名が役員として大会運営にあたった。

行事・各委員会事業報告

平成 24 年度定期総会・第 1 回理事会 5/13 札幌市民ホール

平成 24 年度北海道山岳連盟定期総会・第 1 回理事会は 5 月 13 日(日)札幌市民ホールで 98 名の代議員(出席 72 委任状 26)で開催され、議長団に林(苫小牧山岳会)、千田(釧路山岳連盟)の両氏が選任され議事がすすめられた。上程された議案は、第 1 号議案 平成 23 年度事業報告 第 2 号議案 平成 23 年度収支決算報告 第 3 号議案 会計監査報告 第 4 号議案 加盟団体脱退 第 5 号議案 平成 24 年度活動方針及び事業計画(案) 第 6 号議案 平成 24 年度会計予算(案) 第 7 号議案 役員改選 第 8 号議案 創立 60 周年記念事業について 第 9 号議案 その他 である。

第 5 号議案に係わる平成 24 年度の活動方針で神山理事長は、・創立 60 周年事業の成功 ・傘下山岳団体との緊密な連携及び山岳団体同士の交流促進 ・山岳指導員活用の機会拡大 ・連盟事業のより一層の充実と安全登山の普及 ・道岳連財政の確立 をあげ、特に各種主催事業への参加者急減に伴う収支悪化や日山協公益法人化による年会費引き上げが見込まれるため、早急な対策が必要と述べた。

また、任期満了を迎えた会長・副会長・監事の改選議案は、前役員 6 名の再任が承認され、岩内山岳会の連盟脱退や平成 23 年度第 3 回理事会で議論された「罰則規定」の改定、ジュニア委員会の独立が原案通り承認された。

指導委員会

登攀研修会 5/19-20 室蘭市チャラツナイ海岸

昭和 40 年代に開拓された室蘭市地球岬の岩ゲレンデ“チャラツナイ海岸”で、昨年引き続いて登攀研修会が開催され、函館、新得、新十津川町など遠方よりの参加がありました。初日はまだ肌寒い室蘭岳山麓の総合公園研修所体育館で行われ、基本的なロープ結び、確保姿勢などロープワーク中心に実技をしました。

今回は、昨年 10 月に仙台で行われた“登攀研修会”の伝達講習も兼ねて行いました。昨年とは違った自己脱出のシステムなど DVD を参考に実施しました。早速、ロープレスキューを主にした実技で、初めて体験する難解なロープ結びに奮闘しておりました。クライミングの基本の隔時登攀には太平洋の大海原をバックに二人一組で果敢に挑戦し、クライミングを楽しみました。

(報告者 指導委員会副委員長 藤木 晴夫)



沢・登攀研修会 6/23-24 漁川

今年度の沢・登攀研修は漁川(宿泊 樽前荘)で参加者5名、指導者5名で開催した。一日目は漁川奥漁橋四阿で次の要領により実践研修した。①支点の作り方⇒木・ブッシュを利用、岩を使う、ハーケンを打つ ②ムンターヒッチから⇒トップがムンターで確保し引き上げる、ムンターで確保し初心者を降ろす、懸垂下降 ③固定ロープを張りフリクションノットで登下降 ④器具がなかったら肩がらみ、腕がらみをマスター ⑤初心者をゴボーで引き上げる ⑥1/3、1/5の組み立てと応用 ※沢登は速攻が大切で、装備に頼りすぎず軽量化と装備の応用が肝要である。

二日目は漁川を遡行し、漁岳(1318m)に登頂した。

待ちに待った漁岳

美唄山岳会 山田 泰久

漁川を遡り漁岳の山頂に立ちたくて、ここ数年機会を待ちました。ようやく今回望みを達成することができました。それだけ機会に恵まれなかったということですが…沢登りをはじめて期間が短く、地元の美唄山の沢で基本的なことは学んできて、いざ他所の沢ということになるとなかなか機会がめぐってこないものです。昨年もこの漁川の沢研修に参加しました。去年は去年でとってもしっかり勉強になりました。地元で学んだことを確認しながら発展させられたのですから。今年は「どうしようかな?」と考えていたとき、山頂まで行けらしいよとの情報が流れてきて、これは行かなければと思ったのです。

初日は、スタッフの益田さんの指導で高巻きの登攀・下降技術を学びました。忘れていたことを思い出しながら、次週美唄山の沢詰めに利用できるよう学びました。昨年初日は机上の学習だったのですが、初日から実技を学べるのはとても実利があっけいと感じました。

二日目は、いよいよ沢詰めで山頂へ向かいます。正直なところついていけるのかと心配しました。たまたま今回は参加者が少なく、受講者で私以外は皆さん上級指導員だったのです。経験も少ないし、春からあまり登ってないので、迷惑をかけないかなと思いましたが、指導委員長の明田さんがゆっくり歩きの得意さを自認する加藤さんをトップに選びました。そして天候も回復し、恵まれた山行になりました。川を遡行する気持ちのよさ、滝をよじ登るおもしろさ、交わす会話の楽しさ、そして山頂から見下ろす景色のすばらしさ。いつもオコタンペ湖越に眺めていた漁岳の山頂で、眼下にオコタンペ湖を眺めるのは違った快感でした。今度は積雪期に登りたいと思い、スタッフの益田さんや佐藤さんにルートや状況を聞くことができました。



来年は沢研修が日高を考えておられるようなので期待して待ちます。スタッフの皆さん、本当にありがとうございました。

パワフルレディスティ 7/21-22 ニペソツ山

昨年度より発足した女性だけの山行研修会、今年度は皆の意見で山中泊の研修となる。共同装備・水も含め一人約3kgの荷物を分配後、指導委員会下山さんからの温かい激励の言葉をいただく。自己紹介、リーダー酒井さんからの予定・注意事項をうけ体操。

参加者は10名、山中泊初めての方が約半分だが、天気予報は晴れの予報が続いており、皆、展望・星空の期待も膨らみながら出発する。緩やかながらも、皆ザックの重みに汗を流しながら高

度を稼いでゆく。心配していた大岩も難なくクリア、天狗平に到着後、テン場について話し合おう。不調を訴える者もおらず「前天狗にテン泊します」と皆の意見が一致する。前天狗はテントがいっぱいだったため少し場所を変え、整地後テントを張る。最高のテン場で、このテン場を見つけてくれていたリーダーに感謝。

やっぱりうまい！頑張ってたよかったです～おいしい夕食と宴会、夕日を見た後、各テントへ。夜は満天の星空、もちろん天の川もバッチリ。明日の展望を夢見て皆夢の中へ。眠れた人・眠れなかった人もいますが、さすが女性の底力、疲れた顔を見せずに話がはずむ。もちろん天気は最高！360度の大展望！途中沢沿いに熊の姿を見つけ、皆喜びの絶叫。残念ながら私は見れず… 展望を楽しみながら山頂へ、山頂の花々と展望を堪能し下山。前天狗にてテント撤収、コーヒープレイク後下山。登山口にて下山さんが出迎えてくれている姿に思わず感激！！

参加者、スタッフも含め全員が楽しかったと感ずることができました。皆のアイデアや経験を聞かせてもらうことができたり、今回の山行で皆、感じたことがあるようで、一回り二回りも成長した研修会となりました。次回はどこに行くか考えてといわれていましたが、楽しすぎて話がまとまりませんでした。でも来年度の研修会を楽しみにしています。

参加者の皆さま、スタッフの方々、陰で支えてくださった皆さまに感謝です。ありがとうございました。（報告者 ロビニア山岳会 加藤 陽子）



パワフルレディスディ「2012 ニペソツ山」に参加して

こぶし山岳会 黒岩 美喜子

「2012年はニペソツの年」と聞いていたので、ぜひ今年登りたいと思っていました。そんなときにこのパワフルレディスディに誘われ、参加することに決めました。しかし、準備していると不安は募るばかりでした。初めてのニペソツ山…、山中テント泊…、大きなリュックを背負っての登山…、初めて会う仲間との行動…。

ついに当日がやってきました。晴天！全道から集まった10名が登山口に集合。みんなハツラツとしていて頼もしそうな方ばかり。歩き出すとすぐに川にかかった丸太の横断に苦戦。リュックが重くてバランスが取れず、動けなくなりました。焦るほど汗が流れる私。そんな私にまわりから杖を差し出してくれる方や戻ってきてくれる方、声をかけてくれる方のサポートもありました。出発早々こんな状態の私を見て、みんなはとても不安に感じたでしょう。でも、私はこのときに頼れる仲間存在を感じ、最後まで頑張りたいと思いました。

重い荷物を背負って、一步一步前へ。仲間からは常に元気に話す明るい声が聞こえ、とても励みになりました。演歌を歌えるくらいの息づかいで歩くのが良いと聞いたことがありますが、まさにみなさんはそんな感じでした。大きな荷物で渡るには不安な岩場では、スタッフの方がリュックを運んでくださり助かりました。森林限界から視界が広がりはじめると、ナキウサギとの出会いがあり、心が癒され元気を取り戻しました。無事に前天狗に到着し、山頂を眺めるととても嬉しくなりました。すぐにテント設営、夕食準備となり、みなさんの手際の良さに圧倒されました。夕食メニューはすき焼き&うどん、具だくさんのアイデア料理で体が温まり、会話が弾みました。霧が出てきて、日没後は急激に気温が下がり、早くもテントで横になりましたが、20時を過ぎた頃「星が見えた～！」という声を聞いて外に出て、たくさんの輝く星を見ることができました。

2日目早朝4時、雲海にご来光、遠くは知床の山まで見渡せる360°の景色は何とも言えぬ美しさでした。今日はついに山頂アタック！色鮮やかな花々や十勝連峰、大雪の山、道東・知床の山まで見渡せ目を奪われる山道、頂までの道のりは遠く感じませんでした。そして山頂到着！歓声が沸き、みんな笑顔でした。そんな私たちをたくさんのお花が囲んでくれました。エゾリソウ、アズマギク、ナデシコ 感謝！ 感激！



パワフルレディスディ「2012ニペソツ山」
たくさんのお話から学んだこと、山中で体験したこと、仲間と共感し合ったことは数えきれません。何より、パワフルレディスのみなさんとの出会いは私にとって大切なものになりました。女性だけでもとってもパワフル！仲間にも天候にも恵まれて最高の二日間でした。今回の貴重な機会を与えてくださった方々や、たくさんサポートをしてくださった方々に深く感謝いたします。ありがとうございました。

遭難対策委員会

夏期遭難対策研修会 6/9-10 日高登山研修所

遭難研修会は、6月9日・10日の両日日高町千栄の日高登山研修所において、夏期を迎える時期に備え、沢登りの技術安全に沢を歩くための研修会を開催し、参加者は講師を含め23名でしたが、北海道新聞での呼びかけに一般参加者7名の参加をいただきました。

講師は、元遭難対策委員長でありガイド協会にて講師も務める大橋政樹氏。研修内容は、専門的かつ初心者にもあわせた内容で、受講生を飽きさせず楽しい研修でした。

初日、齊藤委員長より近年の登山ブームにおける遭難の現状と事故の特色の話があり、中高年登山者の注意点などが話されました。大橋講師の机上研修では、リスクマネジメントについて事故とハインリヒの法則の関係など、小さな失敗、危ない場面の積み重ねが大きな事故の予兆と考えられ、見逃さず注意を払うことや対応する装備、技術、知識が自分を守るなどが話された。



沢の渡渉方法では、ロープやスローバックを使った川の渡り方等が話され、講義の後、午後3時から体育館においてロープを張り渡渉の実践研修を行った。

次の日は、滝などを巻く場合を想定し、砂防ダムを使った高巻きや川での渡渉の実践を行った。高巻きは、研修所から国道北側の山間にある砂防ダム横の急斜面をロープで30m登り、砂防を渡りフィックスロープをつたい、ケンスイ下降で降りるもので、沢ではよく行われる技術の研修を行いました。

渡渉の研修では、研修所横の沙流川を使い対岸まで45%角でロープを張り、腰まで水に浸かり一人ずつわたる方法やタッグを組んで渡る方法が実践されるとともに、深みで転び流された場合

の対処法、スローバックの使い方など、研修全般ではかなり高度で本格的な内容となり、楽しく納得の研修会となりました。

(報告者 遭難対策委員長 齋藤 邦明)

普及委員会

中高年安全登山講習会 7/14-15 十勝岳新得コース

北海道山岳連盟(普及委員会)主催、第21回北海道中高年安全登山講習会は、7月14日～15日新得温泉ホテルと十勝岳新得側コースを会場に一泊二日の行程で行われました。

一日目の14日は、①十勝岳の生い立ち(神山理事長)、②山の気象・観天望気とビバークの仕方(太田副会長)、③登山のトレーニング(荒堀普及委員長)、④地図の見方とコンパスの使い方(神山理事長)などの机上講習を行いました。

二日目の15日は、午前4時未だ薄暗いうちにホテルを出発、気になった天気も登山口に近づくにつれて青空に変わり暖かく絶好の登山日和。ウグイスの鳴き声に心誘われながら午前6時に十勝岳新得側コース登山口から登りはじめました。

十勝岳の新得側コースは、登りはじめは緑豊かな森



雪渓残る上メットク川沿いの道



林地帯、そしてハイマツの長いトンネル、昭和37年6月の大噴火による降灰で白骨化したハイマツを見ながら荒涼とした砂漠を思わせる火山灰地を登ります。この不毛を思わせる大地にも、マルバシモツケ、メアカンキンバイ、イワブクロなど植物が花を付け、生命の息吹が感じられ自然の回復力に感動しました。

十勝岳と美瑛岳との稜線下、急傾斜の大雪渓を喘ぎ喘ぎ登りきると十勝岳

山頂が眼前に現れ、自然に参加者から歓声が起こりました。当初の予定どおり11時に山頂

着、記念写真を撮り、弁当を食べ、登りの辛さも忘れて皆さん笑顔になっていました。火山灰地は地面が柔らかく乾燥していたので、下山での膝の負担が少なく、予定より1時間早く午後3時登山口に到着。

この中高年安全登山講習会は、過去4年間天候に恵まれず山頂にたどり着けず、参加者に申し訳ない気持ちでいました。今年7月1日十勝岳で発光現象が発生し、一時避難騒ぎになったので「今年も駄目かな？」と意気消沈したのですが、噴火はなく火山性の可燃ガスが燃えたらしいことが分かり、登山道の閉鎖も解かれ、登山も大成功で今までの胸のつかえも一気に解れました。

疲れた女性参加者の荷物を背負ったり、参加者の登山靴が左右両方の底が剥がれるハプニングにも、テープや漁網の糸出し合い応急措置を施し難を逃れることができました。アクシデントやハプニングに参加者が互いに協力し助け合う姿を目の当たりにして「長年中高年安全登山講習会を実施して来た成果が現れたな～」と、今までの苦労が吹き飛んでしまうほど嬉しく感じま

した。次年度は、標高年登山として「ニペソツ山にしては如何ですか?」「二泊にして懇親を深めたい」との提案があり検討することにしました。

夏山安全登山講習会（7/1 十勝岳新得コース）は発光現象で中止

十勝岳新得コースで開催の平成24年度夏山安全登山講習会は、応募があった参加者16名とスタッフ4名が、当日午前4時に集合場所である新得町公民館駐車場へ集合したところ、NHK取材班が待機。「十勝岳で発光現象があったので、噴火を想定して宿泊者が避難する事態になっている」と知らされ、登山届提出時警察に確認。「発光現象について気象庁は噴火ではないとしているが、事態ははっきりするまで登山は控えてほしい」と言われ十勝岳登山を中止した。

早朝に集まっていたいただいた登山者をただ帰すのは忍びないので、代替え登山として「希望者による芽室岳登山」に切り替え、スタッフのボランティアで実施した。

（報告者 普及委員長 荒堀 英雄）

ジュニア委員会

夏季ジュニア登山教室 8/4-5 日高登山研修所・坊主山

8月4日(土)・5日(日)、開校式とクライミング会場を日高登山研修所、登山場所を坊主山にして、子供11名、一般大人6名と、スタッフ10名にて開催し、夏休みのひと時を楽しみました。

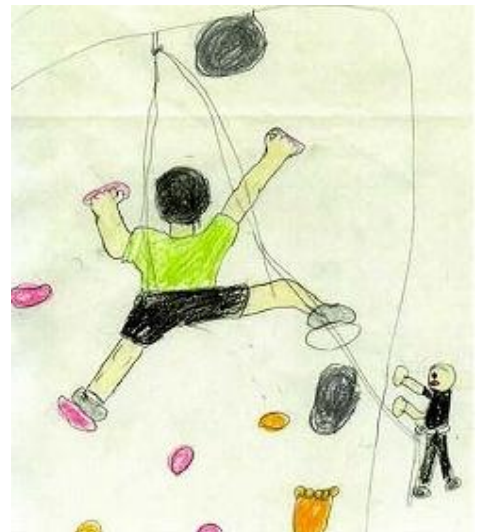
8月4日(土)

12:00 集合・受付開校式、小野会長より挨拶を頂きその後、翌日の登山に向けて「楽しく安全に登山をするために」お話を為野宜己さんより頂き、13:30 楽しみにしていたクライミング体験。その後のスイカ割では、中学生の力が強くスイカを割る棒が折れてしまいました。

平成24年8月45日に登山体験に行きました。最初は初めクライミング体験をしました。さすがに途中で何度も落ちました。しかし、たけとが力になりました。とてもたのしかったです。

また、友達をさそって参加したいと思いました。

絵・文 浅野 陽くん 小6



また、道路向かいの「ちろろルピガーデン」へお散歩に。17:00 全員で夕食の準備、上手に野菜が切れ、美味しいカレーができました。夕食後、お天気が気になる中、少し早めに花火を大人も一緒に楽しみました。

8月5日(日)

坊主山(790.7m)登山

10:00 為野隊長を先頭に、霧雨の中元気に登山口を出発。最初か



ら最後まで子供たちは元気で楽しそうに歩いていました。為野隊長の説明を真剣に聞き、ザリガニを見つけては歓声をあげカエルやヘビを見つけては楽しそうに見ていました。

頂上からの綺麗な展望は見る事が出来ませんでした。お父さんお母さん、お友達と楽しく歩いた事は良い思い出として残ることでしょう。

(報告者 ジュニア委員長 増子 麗子 報告文 奥村)

海外委員会

高所登山講習会 8/17-19 富士山

本年度の富士山頂に宿泊する高所登山講習会が8月17日～19日で行われた。参加者は一般組が女性5名、道岳連組が3名、講師1名の内訳。

初日は、晴れた暑い中、東名高速道路の渋滞に遭いながら御殿場を経由して山中湖の宿へ。大気の状態が不安定で、富士山周辺は雷雨があった。温泉に入ったりしながら明日に備える。



富士山頂剣ヶ峰



朝日を浴びながら下山開始

翌日は4時半頃に山中湖を出発し、富士宮口のシャトルバス乗り場を経由して5合目の登山口へ向かう。天気はまずまずで富士山を仰ぎながら登山開始。6時半近くより登りはじめ、非常にスローペースで山頂に向かう。途中雷鳴を聞いたり、雨にあたり雨具を着けるが、山頂に着くころには雨具も乾くほどの天気であった。15時近くに富士宮口の頂上に到着。天気もよいので剣ヶ峰へ往復したり、ゆっくりとする。16時過ぎ山頂にある「頂上富士館」に入りくつろぐ。夜中、高山病で頭痛や吐き気をもよおす者もいたが、重篤に至らず朝を迎えた。

19日はご来光を5時少し前に拝み、最高の天気の中、御殿場コースへと下山開始。足がゆっくりな女性陣は直接、男性陣は宝永山経由で、宝永火口を経て富士宮5合目へ下山する。9時20分頃下山。お土産を買ったり入浴したりし羽田空港へ向かった。

一般女性の中に足の弱い人がおり、男性陣は時間がかかりすぎて不満があったかもしれないが、ゆっくりと順応する観点からは、このくらいのペースがよいと思われる。去年のリベンジができ、まずまずの成果であった。

報告者 海外委員長 工藤 寛

国体・クライミング委員会

国体山岳競技北海道ブロック予選会 7/28-29

第67回国民体育大会山岳競技北海道ブロック予選会は、7月28-29日の両日、ボルダリングをノースケイプジム、リードを美唄工業高校で開催した。予選会にはキッズ及び一種目のみ参加の選手を除いた選手・監督84名(国体エントリー数)が参加し、9月29日～10月2日まで岐阜県で開催される国民体育大会出場を目指した。

大会成績(各種目3位まで掲載)

ボルダリング

成年男子 ①國谷 斗馬 ②奥谷 和也 ③青木 寛敬

成年女子 ①坂本 瑛子

少年男子 ①大神田恭輔 ②菅原 宏介 ③小山 彬

少年女子 ①小武 芽生 ②佐々木里穂 ③出口 綾華

ビギナー ①松浦 凌 ②松浦 悠 ②鹿俣 智裕

リード

成年男子 ①奥谷 和也 ②國谷 斗馬 ③青木 寛敬

成年女子 ①坂本 瑛子

少年男子 ①菅原 宏介 ②岸本 武蔵 ③小山 彬

少年女子 ①小武 芽生 ②佐々木里穂 ③橋本 菜稀

ビギナー ①松浦 凌 ②櫻井 園子 ②武者 和希

キッズ ①皆川 莉子 ②皆川 果歩 ③鈴木 悠月

団体総合

成年男子 ①レインボークリフ

少年男子 ①遠軽高校 ②札幌稲西高校 ③レインボークリフ

少年女子 ①レインボークリフ ②遠軽高校



リード会場



表彰式

なお、北海道山岳連盟主催事業の美唄工業高校体育館クライミングウォール使用は、本大会が最後となる。

岐阜国体山岳競技派遣選手・監督・トレーナー

(競技会場 岐阜市文化センター・金公園)

成年男子 監督 國谷 斗馬 選手1 奥谷 和也 選手2 杉本 怜

成年女子 監督 長井 洋子 選手1 一安 瑛子 選手2 荻原 亜咲

少年男子 監督 畑野 和宏 選手1 菅原 宏介 選手2 大神田恭輔

少年女子 監督 一安 敏文 選手1 佐々木里穂 選手2 小武 芽生

トレーナー 本堂 雄大

国体派遣選手は予選会実施要項、国体ふるさと選手制度などに基づき、北海道山岳連盟で審査し選考した。

ジュニアオリンピックカップ大会 8/11-13 富山県南砺市

第15回JOCジュニアオリンピックカップ大会は、8月11日～13日までの日程で富山県南砺市桜ヶ池クライミングセンターを会場に、男子131名、女子86名が参加して開催された。北海道代表選手は、6月に美唄市で行った選考会で選抜した男子5名、女子4名が出場した。

	氏名	学校名・学年	生年別カテゴリー	カテゴリー順位
北海道選手 の成績	小武 芽生	札幌市立宮の丘中学校 3年	女子ユースB	4位/23人
	佐々木里穂	北海学園札幌高等学校 1年	女子ユースB	12位/23人
	橋本 菜稀	遠軽高等学校 3年	女子ジュニア	11位/13人
	西村 鮎美	札幌市立清田中学校 1年	女子アンダーユースB	20位/23人
	岸本 武蔵	美瑛市立東忠学校 3年	男子ユースB	21位/36人
	小山 彬	札幌稲雲高等学校 1年	男子ユースB	22位/36人
	菅原 宏介	遠軽高等学校 3年	男子ジュニア	17位/28人
	郡山 翼	遠軽高等学校 3年	男子ジュニア	24位/28人
	岡本 佳明	札幌稲西高等学校 3年	男子ジュニア	25位/28人

3日目、小武の決勝は、C壁からD壁へ渡る40手以上のルートであり、グレードは13a/Bか？小武も十分に優勝候補のひとりであったが、予選のバンプが抜けきらず、最上部でシェイクを繰り返すが、渡りの直前のクロスでフォール、36手、ユースB4位であった。

総じて道内勢は、4月からの合同強化の成果もあり、正確なムーブとアップした保持力で健闘したが、他県勢の伸び、底辺拡大に後れを取った感がある。また、男子は下部からの厳しいホールドに対応しきれなかった。小武、佐々木を脅かす選手の育成と若年層からの系統的指導の必要性を痛感した。



第4回トレールランニング inルストツ

第4回目を迎えたトレールランニング大会は、過去3回と同じくルストツスキー場を舞台に、昨年よりわずかに多い278名の参加を得て、秋晴れの9月23日に行われました。

種目は昨年の50km（男66、女3）、30km（男34、女5）、15km（男69、女24）、5km（男15、女9）に加えて、今回はキッズを対象とした3km（男13、女4）が行われました。

最も辛い50kmの優勝者は市原宏基選手（チーム富士）で、タイムは6時間8分19秒でした。因みに、途中棄権者が男女合わせて10名。その内昨年まで女性3連覇中の赤城選手が途中棄権するなど過酷なレースとなりました。最終ゴールは真っ暗になった夜8時前でタイムは12時間38分38秒でした。特に51番目の選手が入ってから続く選手がなく、ゴール地点から黒々と見える貫気別山斜面を点々と下ってくるキャップライトの光をスタッフ一同じっと見つめる中、一時間後に52番目の選手が到着し、その後5選手が次々とゴールして、残っていたスタッフから盛大な拍手と歓声を受ける感動的な場面となりました。

今年は誘導看板を多く設置してスタッフの数を28名と大幅に減らしましたが、結局最後の5選手を真っ暗な中で誘導したのは道岳連のスタッフで、大変ご苦勞をかけました。企画委員一同深く感謝します。

準備の遅れ等いろいろ問題点は残りましたが、今回は迷う選手も少なく、怪我人も出ないで、

ほぼ無事に終わることができました。動員要請に快く応じていただいた各山岳団体の皆様に、改めてお礼を申し上げます。
(文責 神山)

今後の諸行事

◎第11回スポーツクライミング北海道選手権大会

10/28 北海道工業大学

競技種目 リード競技 スピード競技

カテゴリー オープン男女 ジュニア男女 ビギナー キッズ

参加料 大人 3,000 円 高校・中学生 2,000 円 小学生 1,500 円

申込・問合せ 〒006-0853 札幌市手稲区星置 3 条 8 丁目 8-10-404 山納 秀俊

申込締切 平成 24 年 10 月 10 日(水)必着

◎第51回全日本登山体育大会

10/27-29 福井県 荒島岳他 5 コース

◎日高登山研修所納会(閉所式)

11/10-11 日高登山研修所

指導員全体会議も開催 案内は別途

◎平成 24 年度後期・指導委員会山岳スキースケジュール

山岳スキー指導員研修会 H24/12/22-23 札幌国際スキー場・朝里岳周辺

山岳スキー技術講習会 H25/ 1/26-27 富良野スキー場・富良野岳

山岳スキー研修会 H25/ 2/23-24 日高国際スキー場・日勝ピーク周辺

山岳スキーツアー H25/ 3/23-24 ニセコ山系

道岳連だより 北海道山岳連盟広報 No. 6 6

発行 北海道山岳連盟 事務所 札幌市豊平区平岸 2 条 9 丁目 1-47-502

発行責任者 小野 倫夫 編集担当(総務) 内藤 美佐雄